

水野敏子チャペルコンサート

(名フィル ヴァイオリニスト)

No. 10

～ハープとともに～

●とき：2010年11月7日(日) 14:00 開演

●ところ：名古屋学院大学 (瀬戸キャンパス内)
チャペル (瀬戸市上品野町1350)

●入場料 2,000円 全自由席

■ヴァイオリン
水野敏子

■ハープ
田中資子

●曲目

イギリス民謡	グリーンスリーブス変奏曲
J. S. バッハ	無伴奏ヴァイオリンのための ソナタ第1番
サンサーンス	幻想曲
フォーレ	夢のあとに
パガニーニ	カンタービレ
日本の歌より	浜辺の歌 他

■主催/10Thousand

■お問い合わせ/水野：0561-82-7065

Design/寺田康雄

水野敏子が帰ってくる。久々に、あの水野敏子が帰ってくる。
名古屋学院大学チャペルにおいて、最初にバッハの無伴奏組曲に挑戦したのが平成3年。以来、無伴奏組曲ソナタ・パルティータの全曲演奏は、水野敏子のライフワークともなっているが、数年間のブランクを経ての久々の再開だ。

普段は名古屋フィルで演奏活動をしている水野敏子にとって、オーケストラを離れて、こうした演奏会に取り組むのには訳がある。それは、誰の介在もなく一人の演奏家として、徹底して音楽と向き合い、往年の名作曲家の魂と対話する時間は、自らの音楽家としての原点確認にもつながるレゾナートルなのだ。それは時に厳しい孤独との戦いでもあり、時に甘美な陶酔でもあるというが、それを求める心そのものが、まさに音楽家の音楽家たる所以なのであろう。

バッハの無伴奏は、いつの時代にも演奏家にとってのエベレストであり続けた。希望に燃えた若きヴァイオリニストにとっても、また、厳しい修練を経て卓越した技巧を身につけたヴィルトーゾにとっても、さらには経験を重ね、円熟の域に達した音楽家にとっても、常に無伴奏組曲は演奏者それぞれの段階におけるエベレストであり続けてきた。

さまざまな人生経験を織りなして、水野敏子の音楽は今確かに変容しつつある。ワインが熟成を重ねて芳醇の度を増すように、勢いや技巧のレベルを超えて、それが純粋に人の心に響く音楽につながっていけば、従来の演奏とは一味違った境地が拓かれることであろう。

音楽仲間が無二の親友・ハーブの田中資子を迎えての久々のチャペルコンサートが、水野敏子の新たなステージの幕開けを告げるものとなることを期待したい。

八百津 聡



●プロフィール

明和高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部へ進む。卒業後イタリアに渡り、R・ブレンゴラ氏のもとで弦楽の研鑽をつむかたわらコンサートにも出演。国内では、堀部純子・鷺見三郎・鷺見康郎・辻久子の各氏に師事。

名古屋フィルハーモニー交響楽団のレギュラーメンバーとして活動する一方、ソロや室内楽活動にも力を入れ、名古屋学院大学チャペルでのコンサートや、地元のアマチュアオーケストラとの共演などの多彩な活動は、常に各方面より高い注目と期待を集めている。最近では、福祉施設・教育施設・医療施設等でのボランティア演奏も数多く手がけ、演奏活動を通じた社会貢献と、音楽文化の普及に力を注いでいる。

現姓 鈴木。瀬戸市在住。

